

愛媛若葉ひろみ句会

片膝を立てて爪切る春の宵
大川 眺春

春耕やエンジンそらを耕せり
毛利 敦

万草皆名を持ちて芽ぶきけり
小西 あや

初蝶のよぎりし後に残る空
梶原 一美

足跡を波の消しゆく春の浜
松岡 寛孝

初蝶来縁側といふ日溜りに
伊藤 京

菜の花や穏やかな日を重ねたり
井谷 けい

草の芽や荒れ地に息をふきかえし
福本 恵子

野火走る災の日を憶ふとき
浜田 千鶴

旅立ちし子の部屋に挿す花一枝
長田 徳子

根は憎くく花愛らしき犬ふぐり
高田 弘子

春淡し父の介護に歌うたい
藤田 光子

雪もよう今宵は冷えて虎落笛吾れ呼ぶ夫の声かと思ふ
山本まつゑ

豎琴のごとき吊橋瀬戸渡り戦国武将の姫路城に着く
武田 幸子

ベットより空眺むれば今日の雲くじらの親子のよりそいおよく
佐々木登美子

梅香りおり母の遺せし袖無しを繕いながら陽ざしを受けて
兵田トミ子

県庁前愛媛マラソン出発すミサイル発射のニュースの中を
二宮 安恵

運命とて幾何生きされしこの命八十路の坂を歩いて見たい
伊手リツエ

春雷とトタン屋根打つ雨の音眠りに何けずしずまるをまつ
芝 幸子

青空に鎮守の杜の大銀杏夕日に染みて黄にかがやけり
西添 春子

終の日の「寿子守る」父の言葉に幾度か救はれ来し
蛭谷 寿子

忘れごと多くなりたる常なれど戦時の悲惨語りつぎたき
高田 治子

広見短歌会

鬼北の足跡を辿る…【鬼北の霊山第1回】

鬼北の霊山 「奈良山」

昨年10月、「鬼北の『鬼』の起源とは？」中世妙寺の世界観にせまる」と題した講演会を近永公民館で開催しました。講師は、日本山岳修験学会理事で全国の修験霊山に見識をお持ちの山本義孝氏で、「奈良山」についてお話をいただきました。

り、死者の魂が還る場、祖先の霊が宿る場と信じられてきました。山にお墓を建てるのもこうした理由からです。またお坊さんが山で修行するのも、山のもつ霊力を取り込んで体現することを目指すからなのです。

皆さんは「奈良山」とはどこか分かりますか？鬼北町内に住んでいてもこのことかと思えます。「鬼が城連山」と呼ばれる山々のこと、というのが概ね妥当な回答ですが、その山裾までを含めた広範囲なエリアのことを指しつつ、明確に線引きできない、観念的・概念的な山、それが「奈良山」です。

お寺にはそれぞれ山号という別の名前が付いていたりします。寺院のある場所を示すことが原型ですが、山岳信仰が結びつき、山の持つ自然の霊力を寺院に付与させると言う意味も込められています。等妙寺の場合は、山号が「奈良山」で、寺号が「等妙寺」となっています。

山岳信仰とは、山を神聖視し、崇拜の対象とする信仰のことです、自然崇拜の一種です。こうした信仰の起源は古く、民間で広く伝承され、信仰されてきました。山頂にある岩は、山の神様が降臨する場、あるいは宿る場「磐座(いわくら)」とされ、それが信仰の対象となっていたりします。また領域の境界、例えば国境などの山の境であったりしますが、こういった空間の変わり目にあたる場所も神聖視され、神様が祀られたりします。神様に抱かれた山には霊力が宿

今年度の「鬼北の足跡を辿る」では「奈良山」に点在する信仰遺跡などをテーマとしてご紹介したいと思います。



近永方面から見た「奈良山」